

ねん がつ にち
2020年5月10日
ふっかつせつだい ごしゅじつ
復活節第五主日
きくち いさおだい しきょう せつきょう
菊地 功 大司教 ミサ説教

さいご みな いっしょ だいせいどう ささ がつ にち はい
最後に皆さんと一緒にこの大聖堂でミサを捧げたのは、2月26日、灰
すいようび よくじつ つど さんび ささ
の水曜日のことでした。その翌日から、ともに集い、ともに賛美を捧げ、
いの いちじちゅうだん きんきゅうじたい せんげん
ともに祈ることを、一時中断しています。緊急事態が宣言されてい
あいだ こうかい ちゅうし けいぞく え かんせん
る間は、公開ミサの中止を継続せざるを得ません。感染しないため
かんせん
であり、感染させないためでもあります。

ことし ふっかつさい せんれい う じゅんぴ おお
今年の復活祭に洗礼を受けるため、準備してこられた多くのみなさん。
しんこうきょうどうたい ところ むす
わたしたちは、信仰共同体の心のきずなで結ばれていることを、どう
ところ ふたた あつ ひ よろこ きぼう いっしょ
か心にとめてください。再び集まれる日に、喜びと希望をもって一緒
さんび ささ こんなん じき あいだ
に賛美を捧げることができるよう、この困難な時期の間も、わたしと、
きょうく いの とき
そして教区のみなさんと、祈りの時をともにしてください。

びょうしょう ふあん まいにち す かたがた くる
また、病床にあって不安のうちに毎日を過ごしておられる方々、苦し
なか たたか かたがた けいざいてき こんなん ちよくめん
みの中で闘っておられる方々、経済的な困難に直面しておられる
かたがた あた ぬし かみ みな ちから まも
方々。いのちの与え主である神が、皆さんを力づけ、守ってくださる
いの すく にちやふんとう い
ように祈っています。またいのちを救うために、日夜奮闘されている医
りようかんけいしゃ みな ところ かんしゃ みな けんこう まも
療関係者の皆さん。心からの感謝とともに、皆さんの健康が守ら
いの
れるように祈っています。

きょうかい れきし なか さまざま へんかく たいけん いま か
教会は、歴史の中で、様々な変革を体験してきましたが、今また、変
つちか きょうかい かた おお
わることをせまられています。これまで培ってきた教会のあり方を、大
か し きょうどうたい あつ
きく変えなくてはならないのかも知れません。共同体として集まることの
たいせつ か どうじ げんざい じたい
大切さには変わりがないものの、同時に、現在のような事態にあって、た
じっさい あつ れいてき きょうどうたい はぐく すべ み
とえ実際に集まらなくても、霊的な共同体を育んでいく術を、見い

もと おも
だすように求められていると思います。

そもそもわたしたちの信仰は、共同体の信仰です。わたしたちの信仰は、「交わり」のうちにある信仰です。「交わり」とは、「共有する」ことだったり、「分かち合う」ことだったり、「あずかる」ことを意味しています。コリント書に、「わたしたちが神を賛美する賛美の杯は、キリストの血にあずかることではないか。わたしたちが裂くパンは、キリストの体にあずかることではないか（1コリ10:16）」とある、「あずかる」は、「交わり」のことです。わたしたちの信仰は、キリストの体である共同体の交わりのなかで、生きている信仰です。

教会に集まらない今、わたしたちは祈りのときをともにしながら、主日には霊的聖体拝領が勧められていますが、その霊的聖体拝領は、個人の信心のためではなくて、共同体の「交わり」のためであります。キリストの御体にあずかること、すなわち交わりです。

ですから、離れていたとしても、わたしたちは一つのキリストの体の一部としてあり、その交わりの中で一致へと招かれているのだということを、忘れないようにいたしましょう。

主イエスは、「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、誰も父のもとに行くことができない」と福音の中で語られます。

イエスは、地図にすでに描かれている道を案内してくれるガイドではなくて、自分こそが何もないところに新たに切り開かれていく道そのものであると宣言されます。すなわち、御父へと至る道は、すでに存在している道ではなくて、常にイエスご自身が先頭に立って切り開いて行かれる新し

みち じしん おんちち
い道であり、イエスご自身のことであります。ですから、わたしたちは御父
いた みち ひとり かって あゆ あたら みち し
へと至る道を、一人で勝手に歩むことはできません。新しい道を知ら
つ したが あゆ つづ
ないからです。イエスに付き従って、歩み続けなければなりません。そし
みち きょうどうたい まじ あゆ わ
てその道を、わたしたちは共同体の交わりのうちに歩みます。ともに分
あ ささ あ きょうどうたい みち つ したが
かち合い支え合いながら、共同体として道であるイエスに付き従いま
す。

しょだい きょうかい でし かず ふ つづ はってん ころ じっさい
初代教会では、弟子の数が増え続け発展してきた頃に、その実際の
うんえい めぐ たいりつ こんらん しょう しとげんこうろく しる
運営を巡って対立と混乱が生じたと、使徒言行録に記されています。

きょうかい きょうどうたい ゆうせん なに しきべつ
そこで教会共同体にとって優先すべきことは何かを識別し、その
あら きょうかい かた さだ だいいち へんかく
ために新たな教会のあり方を定めていったのです。第一の変革です。
かみ ことば つ ゆうせん しきべつ きょう
神の言葉を告げしらせることこそ優先すべきことであると識別した教
かい せいど ととの はってん と
会は、そのための制度を整えたことで、さらに発展を遂げていきました。

いま じだい ゆうせん じこう か きょうかい かみ
今の時代にあっても、その優先事項は変わっていません。教会は、「神
ことば かみ ことば おお ひと
の言葉をないがしろにして」はなりません。神の言葉をさらに多くの人た
つ じょうきょう きょうかい かた
ちに告げていくために、この状況にあって教会はどのようなあり方が
みなお あら ちょうせん
ふさわしいのか、見直していかなくてはならないのです。もし新たな挑
なに はじ あつ きょうかい おんちち いた みち
を何も始めなければ、集まることのできない教会は、御父へと至る道
き ひら すす しゅ はる かなた なが と のこ
を切り開き進まれる主を、遙か彼方に眺めながら、取り残されていくだ
きょうかい へんかく
けです。いま教会は変革のときにあります。

とく せんれい う あと さまざま じじょう きょうかい きより お
特に、洗礼を受けた後に、様々な事情から、教会と距離を置いてい
おお かたがた ころ もう あ きょうかい いま か
る多くの方々に、心から申し上げたい。教会は今、変わらなくては
みな ひとり ひつよう
なりません。そのためには、皆さん一人ひとりが必要です。

たびじ つづ なか かみ しゃ かみ みむね
さて、そのような旅路を続ける中で、「神をあがめ、キリスト者を神の御旨

かんぜん いっち せいかつ む みちび せいぼ しんじん
と完全に一致した生活に向かうように導く」のは、聖母マリアへの信心
の ろくせい
であると述べたのは、パウロ六世でした（マリアーリス・クルトゥス39）。

きょうかい でんとうてき ごがつ せいぼ つき ことし せいぼ つき
教会は伝統的に五月を聖母の月としていますが、今年の聖母の月に
きょうこう しんと しょかん おく つぎ まね
あたり 教皇フランシスコはすべての信徒へ書簡を送り、次のように招
いておられます。

ごがつ かみ たみ ねっしん あい すうけい あらわ
「五月は、神の民がとりわけ熱心におとめマリアへの愛と崇敬を表す
つき ごがつ かてい かぞくいっしょ いの とな でんとう
月です。五月には家庭で家族一緒にロザリオの祈りを唱える伝統があ
かんせんしょう だいいりゅうこう せいやく けっか
ります。感染症の大流行によるさまざまな制約の結果、わたしたち
かてい いの そくめん たいせつ れいてき
はこの『家庭で祈る』という側面がなおさら大切であることを、霊的な
かんてん し
観点からも知ることになりました」

きょうこう ふた いの ようい とな いの まね
教皇は二つの祈りを用意して、ロザリオを唱えるときに祈るようにと招
いておられます。

こんしゅう がつ にち せいぼ しゆくじつ ねん がつ にち
今週、5月13日は、ファティマの聖母の祝日です。1917年5月13日
がつ にち あいだ
から10月13日の間にポルトガルで、ルチア、ヤシント、フランシスコの
さんにな せいぼ ろくかいしゅつげん
三人の子どもたちに、聖母は六回出現されました。

ねん がつ にち おこな れつせいしき せっきょう
2017年5月13日に行われたヤシントとフランシスコの列聖式の説教
きょうこう の
で、教皇フランシスコはこう述べておられます。

「ルチアによれば、3人の子供たちは聖母から発せられた光に包まれた
せいぼ かみ あた ひかり かれ つつ
といひます。聖母は神から与えられた光のマントで彼らを包まれたので
せいぼ もと うしな せいぼ ほうよう
す。聖母のマントの下にあるものは失われません。聖母の抱擁によって、
ひつよう きぼう へいわ しんあい きょうだいしまい みな
必要な希望と平和がやってくるでしょう。親愛なる兄弟姉妹の皆さん、
た ひと みみ かたむ きぼう かみ いの
他の人が耳を傾けてくれるとの希望をもって神に祈りましょう。そして
た ひと かた かみ たし わたし たす くだ
他の人に語りましょう、神は確かに私たちを助けて下さると。」

おな　かくしん　も　　　　　　こんなん　じょうきょう　　　　　　　せいぼ　と　つ
同じ確信を持って、困難な状況にあるわたしたちは、聖母の取り次
もと　いの　　　　　　せいぼ　　　　　　　かみ　みむね　かんぜん
ぎを求めて祈りましょう。聖母マリアが、わたしたちを「神の御旨と完全
いっち　せいかつ　む　　　　　　みち　しんり　　　　　　しゅ
に一致した生活に向かうように」、道、真理、いのちである主イエスへと
みちび　　　　　　いの　　　　　　　　せいぼ　と　つ　　　　　　しゅ
導いてくださるよう祈りましょう。また聖母の取り次ぎによって主へと
みちび　　　　　　きょうかい　みずか　　　　　　かた　　　　　　しきべつ　ふか　　こんなん　じき
導かれた教会が、自らのあり方について識別を深め、困難な時期
　　しゃかい　　　　　　きぼう　ひかり　　　　　　みち　み
にあつて、社会における希望の光となる道を見いだすことができるよう
いの　つづ
に、祈り続けましょう。